

新しい東京拘置所にも死刑場があります

国会議員の刑場視察

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

電車が荒川と綾瀬川の間を通過する頃、南側に高層化された東京拘置所の建物がよく見えます。まだ完成はしていませんが、すでに被収容者の約半数が今年の3月末からこの新しい建物に移っています。しかし、彼らからは電車も町並みも一切、見ることはできません。この建物は不透明ガラスに覆われているのです。現在32名の死刑確定囚がこの中で生活しています。

☆☆☆

新しい建物にも死刑執行を行う刑場が作られています。7月27日、衆議院法務委員会の国会議員9人が視察しました。刑場が視察されたのははじめてのことです。

視察に参加した議員の話によると、刑場は地下にあり、ドアは他の扉と同じで一見刑場とはわからない。観音像のある部屋があり、アコーデオンカーテンで仕切られたその隣りが刑場で、中央に四角い枠があり、その部分が開き、約4メートル下に落下する仕組みになっている。刑場の奥はガラス張りになっていて、その向こうが検察官や所長らが立ち会う場所で、そこからは落下後の下の部屋まで見られるように作られている……のだそうです。

「刑場の位置は日常歩いている通路の普通のドアをひょいとあけるとあったという感じで、日常から非日常に変わる境界が感じられない」

「しかし、刑場の装置自体は、巨大な人命殺戮装置、人命断絶装置にほかならない。刑務官が儀式性や躊躇を感じないように、あえて日常の連続の中にあるかのような位置に設定したのかもしれない」と視察した議員は語っています。

☆☆☆

ところで、「死刑廃止を推進する議員連盟」が準備していた「重無期刑の創設及び死刑制度調査会の設置等に関する法律案」は、ついに上程されないまま国会は閉会しました。報道によれば自民党法務部会で「死刑廃止なんてとんでもない！」と異論があがったためだそうです。この法律案はそうした声もあることに配慮したうえで、直接死刑廃止をうたわず、調査会を設置して、その結論が出るまで執行を停止しよう、というものだったのですが、それでも法案提出の合意が得られませんでした。議員連盟の亀井静香会長は「いずれ理解は得られるはず」とコメントしていますが、この新しい刑場が使われる前にと願うものです。